

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	呉竹医療専門学校
設置者名	学校法人呉竹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	鍼灸マッサージ科 I 部	夜・通信	1310 時間	240 時間	
	鍼灸科 I 部	夜・通信	1106 時間	240 時間	
	鍼灸科 II 部	①夜・通信	854 時間	135 時間	
	柔道整復科 I 部	夜・通信	2032 時間	240 時間	
	柔道整復科 II 部	①夜・通信	1832 時間	135 時間	
(備考) 新学則移行期間のため、1、2 年次は新学則、3 年次は旧学則を用いた合計時間を記載					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/public_info.html">http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/public_info.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	呉竹医療専門学校
設置者名	学校法人 呉竹学園

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

[http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/public\\_info.html](http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/public_info.html)

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	公益財団法人 健康・体力 づくり事業財団 理事長	令和元年6月 21日～令和3 年6月20日	医学教育
非常勤	新創監査法人 代表パートナー	令和元年6月 21日～令和3 年6月20日	財務・会計
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	呉竹医療専門学校
設置者名	学校法人 呉竹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの役割、項目ごとの留意点などを記した「シラバス作成ガイドライン」を作成している。このガイドラインに基づいて各講義を担当する教員が12月～3月にかけて授業計画を立案し、3月中旬に各科の教務会で内容の審議を経て、校長が決定する。</p> <p>シラバスには、授業科目の基礎情報(科目名、授業時数、対象学年)、担当教員(実務経験のある教員はその経験内容)、授業概要(実務経験の反映を含む)、授業の一般目標(GIO)、使用教材・教具、成績評価基準、成績評価方法、履修の注意点、各コマにおける授業計画{内容・到達目標(SBOs)、授業形式}等の項目に加え、講義を担当する教員のメッセージを掲載しており、学生が計画を立てて主体的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>当該年度のシラバスは在校生に配付している。また、4月上旬にホームページ上に掲載し、広く一般に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/public_info.html">http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/public_info.html</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の評価および認定については、シラバス、学則に定めた成績評価の方法・基準に則り、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>成績評価の方法は主に定期試験・技術試験・レポート課題等により行っている。それらの評価の配分は、各科目毎に設定されており、各科で作成したシラバスに掲載されている。</p> <p>成績評価の基準は学則に記載されており、100点満点換算で100～90点をA、89点～70点をB、69点～60点をC、60点未満をDとし、A・B・Cを合格、Dを不合格と定めている。ただし、出席の割合が70%に達していない者は、当該科目について評価を受けることは出来ない。評価の判定及び単位(進級・卒業)の認定については、教務会の議を経て校長がこれを決定する。</p> <p>シラバスおよび学則は、入学時に配付する「学生ハンドブック」に掲載し、成績評価方法・基準及び認定方法についてはあらかじめ明示している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価に関する客観的な指標として GPA (グレード・ポイント・アベレージ) を用いており、学科・部毎の成績分布状況を把握している。GPA の算出方法は「呉竹医療専門学校 GPA 制度に関する取扱要綱」に定めており、ホームページにより公表している。GPA の具体的な算出方法は次の通り。

(評価及び GP)

学則第 15 条第 2 項により規定された「成績の評価 (以下「評価」という。)」に与えられる GP (Grade Point) は、次表のとおりとする。

成績評価	点数	GP
A	100～90 点	4.0
B	89～70 点	3.0
C	69～60 点	2.0
D	60 点未満	0.0

(GPA の算出方法)

本校で取り扱う GPA は、当該年度 (4 月から 3 月) の学修の状況及び成果を示す指標として算出する GPA (以下「年間 GPA」という。) 並びに在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としての GPA (以下「累積 GPA」という。) の 2 種類とする。

GPA の計算式は、次に定めるところによるものとし、算出された数値の小数点第 3 位以下は切り捨てるものとする。

年間 GPA の計算式

(1) 年間 GPA の計算式

$$\text{年間 GPA} = \frac{\text{(当該期間に評価を受けた科目の GP} \times \text{当該科目の単位数) の合計}}{\text{当該期間に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

(2) 累積 GPA の計算式

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{(在学全期間に評価を受けた科目の GP} \times \text{当該科目の単位数) の合計}}{\text{在学全期間に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

[http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/public\\_info.html](http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/public_info.html)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学科の卒業認定方針（ディプロマポリシー）を次の通り定め、ホームページにより公表している。

□ディプロマポリシー

医の東西を問わず全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施している。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とし、以下のような能力（卒業アウトカム）を備えた卒業生を輩出する。

〈鍼灸科・鍼灸マッサージ科〉

- ① 衛生的かつ安全な施術ができる。
- ② 疾患の適切な鑑別（＝適応・不適応の鑑別）ができる。
- ③ 患者の愁訴に対して的確にアプローチできる。
- ④ 多職種との連携、チーム医療を行うことができる。

〈柔道整復科〉

- ① 運動器系皮下損傷の応急処置ならびに救命処置に携わることができる。
- ② 医療施設における自身の衛生管理ならびに患者の接遇や他職種との連携ができる。
- ③ 地域の初期医療ならびに予防医学に基づいた医接連携を目標に研修ができる。
- ④ 柔道整復の有用性を吟味し科学的に検証する手法を培うことができる。
- ⑤ 上記の全てあるいはいずれかに特化した社会貢献ができる。

本校は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与する。

各学科の卒業認定要件は次の通り定めており、卒業判定の手順については各学科の教務会の議を経て校長が決定している。

□卒業認定要件

〈鍼灸科・鍼灸マッサージ科〉

次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。

- ① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位を全て修得した者。
- ② 実技認定試験に合格した者。

〈柔道整復科〉

次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。

- ① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位をすべて修得した者。
- ② 柔道整復研修試験財団が実施する認定実技審査に合格した者。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[http://www.kuretakeiryō.ac.jp/about/public\\_info.html](http://www.kuretakeiryō.ac.jp/about/public_info.html)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	呉竹医療専門学校
設置者名	学校法人 呉竹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/public_info.html">http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/public_info.html</a>
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸マッサージ科I部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼夜	2850単位時間	1854 単位時間 /単位	単位時間 /単位	225 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1004 単位時間 /単位
	昼間		3083単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		177人	0人	14人	25人	39人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>シラバスの役割、項目ごとの留意点などを記した「シラバス作成ガイドライン」を作成している。このガイドラインに基づいて各講義を担当する教員が12月～3月にかけて授業計画を立案し、3月中旬に各科の教務会で内容の審議を経て、校長が決定する。</p> <p>シラバスには、授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学年）、担当教員（実務経験のある教員はその経験内容）、授業概要（実務経験の反映を含む）、授業の一般目標（GIO）、使用教材・教具、成績評価基準、成績評価方法、履修の注意点、各コマにおける授業計画（内容・到達目標（SB0s）、授業形式）等の項目に加え、講義を担当する教員のメッセージを掲載しており、学生が計画を立てて主体的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>当該年度のシラバスは在校生に配付している。また、4月上旬にホームページ上に掲載し、広く一般に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価および認定については、シラバス、学則に定めた成績評価の方法・基準に則り、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>成績評価の方法は主に定期試験・技術試験・レポート課題等により行っている。そ</p>

<p>これらの評価の配分は、各科目毎に設定されており、各科で作成したシラバスに掲載されている。</p> <p>成績評価の基準は学則に記載されており、100点満点換算で100～90点をA、89点～70点をB、69点～60点をC、60点未満をDとし、A・B・Cを合格、Dを不合格と定めている。ただし、出席の割合が70%に達していない者は、当該科目について評価を受けることは出来ない。評価の判定及び単位（進級・卒業）の認定については、教務会の議を経て校長がこれを決定する。</p> <p>シラバスおよび学則は、入学時に配付する「学生ハンドブック」に掲載し、成績評価方法・基準及び認定方法についてはあらかじめ明示している。</p>
<p><b>卒業・進級の認定基準</b></p> <p>(概要)</p> <p>各学科の卒業認定方針（ディプロマポリシー）を次の通り定め、ホームページにより公表している。</p> <p>□ディプロマポリシー</p> <p>医の東西を問わず全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施している。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とし、以下のような能力（卒業アウトカム）を備えた卒業生を輩出する。</p> <p>① 衛生的かつ安全な施術ができる。</p> <p>② 疾患の適切な鑑別（＝適応・不適応の鑑別）ができる。</p> <p>③ 患者の愁訴に対して的確にアプローチできる。</p> <p>④ 多職種との連携、チーム医療を行うことができる。</p> <p>本学科は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与する。</p> <p>各学科の卒業認定要件は次の通り定めており、卒業判定の手順については各学科の教務会の議を経て校長が決定している。</p> <p>□卒業認定要件</p> <p>次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。</p> <p>① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位を全て修得した者。</p> <p>② 実技認定試験に合格した者。</p>
<p><b>学修支援等</b></p> <p>(概要)</p> <p>1週間以上連続して欠席する者には、事由を聴取した上で欠席届を提出させている。（病欠の場合は原則として診断書を提出）。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の10%に達しようとする者には、担任及び科目担当者から口頭で注意を促す。20%に達しようとする者には、科長より警告文書により注意を行っている。25%に達しようとする者には校長より保証人に通知を行っている。30%に達しようとする者には科長、担任及び科目担当者からの厳重注意を行い、原級留置の注意を喚起している。また、成績不良科目（60点未満）については、再試験や補習を行い、成績の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

47人 (100%)	2人 (4.3%)	42人 (89.4%)	3人 (6.4%)
(主な就職、業界等) 治療院、病院・診療所、介護施設など			
(就職指導内容) ・在校生、卒業生向け呉竹学園求人検索システムにて求人情報を提供している。 ・埼玉県労働産業部や大宮ハローワークより講師を招いて就職支援労働講座を開催している。 ・企業等とのマッチングを行った上で、就職相談会を開催している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験合格者数(平成30年度卒業生) はり師 … 47名受験 46名合格 きゅう師 … 47名受験 46名合格 あん摩マッサージ指圧師 … 47名受験 47名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
172人	8人	4.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学は成績不良が主な要因を占めており、担任による面談、個別担当教員による面談、個別補習等を実施しているほか、心理面の相談については公認心理師を配置し、個別相談に応じる体制を整えている。 また、全ての入学予定者に対して入学前より学習指導を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸科 I 部	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼夜	2670単位時間	1834 単位時間 /単位	単位時間 /単位	225 単位時間 /単位	単位時間 /単位	824 単位時間 /単位
	昼間		2883単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		31人	0人	14人	25人	39人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)



(概要)

シラバスの役割、項目ごとの留意点などを記した「シラバス作成ガイドライン」を作成している。このガイドラインに基づいて各講義を担当する教員が12月～3月にかけて授業計画を立案し、3月中旬に各科の教務会で内容の審議を経て、校長が決定する。

シラバスには、授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学年）、担当教員（実務経験のある教員はその経験内容）、授業概要（実務経験の反映を含む）、授業の一般目標（GIO）、使用教材・教具、成績評価基準、成績評価方法、履修の注意点、各コマにおける授業計画（内容・到達目標（SBOs）、授業形式）等の項目に加え、講義を担当する教員のメッセージを掲載しており、学生が計画を立てて主体的に学習に取り組めるようにしている。

当該年度のシラバスは在校生に配付している。また、4月上旬にホームページ上に掲載し、広く一般に公表している。

成績評価の基準・方法

(概要)

学修成果の評価および認定については、シラバス、学則に定めた成績評価の方法・基準に則り、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。

成績評価の方法は主に定期試験・技術試験・レポート課題等により行っている。これらの評価の配分は、各科目毎に設定されており、各科で作成したシラバスに掲載されている。

成績評価の基準は学則に記載されており、100点満点換算で100～90点をA、89点～70点をB、69点～60点をC、60点未満をDとし、A・B・Cを合格、Dを不合格と定めている。ただし、出席の割合が70%に達していない者は、当該科目について評価を受けることは出来ない。評価の判定及び単位（進級・卒業）の認定については、教務会の議を経て校長がこれを決定する。

シラバスおよび学則は、入学時に配付する「学生ハンドブック」に掲載し、成績評価方法・基準及び認定方法についてはあらかじめ明示している。

卒業・進級の認定基準

(概要)

各学科の卒業認定方針（ディプロマポリシー）を次の通り定め、ホームページにより公表している。

ディプロマポリシー

医の東西を問わず全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施している。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とし、以下のような能力（卒業アウトカム）を備えた卒業生を輩出する。

- ① 衛生的かつ安全な施術ができる。
- ② 疾患の適切な鑑別（＝適応・不適応の鑑別）ができる。
- ③ 患者の愁訴に対して的確にアプローチできる。
- ④ 多職種との連携、チーム医療を行うことができる。

本学科は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与する。

各学科の卒業認定要件は次の通り定めており、卒業判定の手順については各学科の教務会の議を経て校長が決定している。

卒業認定要件

次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。 ① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位を全て修得した者。 ② 実技認定試験に合格した者。
学修支援等 (概要) 1 週間以上連続して欠席する者には、事由を聴取した上で欠席届を提出させている。(病欠の場合は原則として診断書を提出)。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の10%に達しようとする者には、担任及び科目担当者から口頭で注意を促す。20%に達しようとする者には、科長より警告文書により注意を行っている。25%に達しようとする者には校長より保証人に通知を行っている。30%に達しようとする者には科長、担任及び科目担当者からの厳重注意を行い、原級留置の注意を喚起している。また、成績不良科目(60点未満)については、再試験や補習を行い、成績の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	9人 (64.3%)	4人 (28.6%)
(主な就職、業界等) 治療院、病院・診療所、介護施設など			
(就職指導内容) ・在校生、卒業生向け呉竹学園求人検索システムにて求人情報を提供している。 ・埼玉県労働産業部や大宮ハローワークより講師を招いて就職支援労働講座を開催している。 ・企業等とのマッチングを行った上で、就職相談会を開催している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) はり師、きゅう師国家試験合格者数(平成30年度卒業生) はり師 … 14名受験 13名合格 きゅう師 … 14名受験 13名合格			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学は成績不良が主な要因を占めており、担任による面談、個別担当教員による面談、個別補習等を実施しているほか、心理面の相談については公認心理師を配置し、個別相談に応じる体制を整えている。		

また、全ての入学予定者に対して入学前より学習指導を実施している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸科Ⅱ部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜間	2658単位時間	1834 単位時間 /単位	単位時間 /単位	225 単位時間 /単位	548 単位時間 /単位	
			2607単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		67人	0人	14人	25人	39人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>シラバスの役割、項目ごとの留意点などを記した「シラバス作成ガイドライン」を作成している。このガイドラインに基づいて各講義を担当する教員が12月～3月にかけて授業計画を立案し、3月中旬に各科の教務会で内容の審議を経て、校長が決定する。</p> <p>シラバスには、授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学年）、担当教員（実務経験のある教員はその経験内容）、授業概要（実務経験の反映を含む）、授業の一般目標（GIO）、使用教材・教具、成績評価基準、成績評価方法、履修の注意点、各コマにおける授業計画（内容・到達目標（SBOs）、授業形式）等の項目に加え、講義を担当する教員のメッセージを掲載しており、学生が計画を立てて主体的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>当該年度のシラバスは在校生に配付している。また、4月上旬にホームページ上に掲載し、広く一般に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価および認定については、シラバス、学則に定めた成績評価の方法・基準に則り、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>成績評価の方法は主に定期試験・技術試験・レポート課題等により行っている。これらの評価の配分は、各科目毎に設定されており、各科で作成したシラバスに掲載されている。</p> <p>成績評価の基準は学則に記載されており、100点満点換算で100～90点をA、89点～70点をB、69点～60点をC、60点未満をDとし、A・B・Cを合格、Dを不合格と定めている。ただし、出席の割合が70%に達していない者は、当該科目について評価を受けることは出来ない。評価の判定及び単位（進級・卒業）の認定については、教務会の議を経て校長がこれを決定する。</p> <p>シラバスおよび学則は、入学時に配付する「学生ハンドブック」に掲載し、成績評価方法・基準及び認定方法についてはあらかじめ明示している。</p>
卒業・進級の認定基準

(概要)

各学科の卒業認定方針（ディプロマポリシー）を次の通り定め、ホームページにより公表している。

□ディプロマポリシー

医の東西を問わず全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施している。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とし、以下のような能力（卒業アウトカム）を備えた卒業生を輩出する。

- ① 衛生的かつ安全な施術ができる。
- ② 疾患の適切な鑑別（＝適応・不適応の鑑別）ができる。
- ③ 患者の愁訴に対して的確にアプローチできる。
- ④ 多職種との連携、チーム医療を行うことができる。

本学科は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与する。

各学科の卒業認定要件は次の通り定めており、卒業判定の手順については各学科の教務会の議を経て校長が決定している。

□卒業認定要件

次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。

- ① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位を全て修得した者。
- ② 実技認定試験に合格した者。

学修支援等

(概要)

1 週間以上連続して欠席する者には、事由を聴取した上で欠席届を提出させている。（病欠の場合は原則として診断書を提出）。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の10%に達しようとする者には、担任及び科目担当者から口頭で注意を促す。20%に達しようとする者には、科長より警告文書により注意を行っている。25%に達しようとする者には校長より保証人に通知を行っている。30%に達しようとする者には科長、担任及び科目担当者からの嚴重注意を行い、原級留置の注意を喚起している。また、成績不良科目（60点未満）については、再試験や補習を行い、成績の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	1人 (6.3%)	14人 (87.5%)	1人 (6.3%)

(主な就職、業界等)

治療院、病院・診療所、介護施設など

(就職指導内容)

- ・在校生、卒業生向け呉竹学園求人検索システムにて求人情報を提供している。
- ・埼玉県労働産業部や大宮ハローワークより講師を招いて就職支援労働講座を開催している。
- ・企業等とのマッチングを行った上で、就職相談会を開催している。

(主な学修成果 (資格・検定等) )	
はり師、きゅう師国家試験合格者数 (平成 30 年度卒業者)	
はり師	… 16 名受験 16 名合格
きゅう師	… 16 名受験 16 名合格
(備考) (任意記載事項)	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	4 人	6.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学は成績不良が主な要因を占めており、担任による面談、個別担当教員による面談、個別補習等を実施しているほか、心理面の相談については公認心理師を配置し、個別相談に応じる体制を整えている。 また、全ての入学予定者に対して入学前より学習指導を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復科 I 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2878 単位時間	2058 単位時間 /単位	448 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	192 単位時間 /単位	
			2878 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180 人		158 人	0 人	8 人	22 人	30 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
シラバスの役割、項目ごとの留意点などを記した「シラバス作成ガイドライン」を作成している。このガイドラインに基づいて各講義を担当する教員が 12 月～3 月にかけて授業計画を立案し、3 月中旬に各科の教務会で内容の審議を経て、校長が決定する。	
シラバスには、授業科目の基礎情報 (科目名、授業時数、対象学年)、担当教員 (実務経験のある教員はその経験内容)、授業概要 (実務経験の反映を含む)、授業の一般目標 (GIO)、使用教材・教具、成績評価基準、成績評価方法、履修の注意点、各コマにおける授業計画 (内容・到達目標 (SBOs)、授業形式) 等の項目に加え、講義を担当する教員のメッセージを掲載しており、学生が計画を立てて主体的に学習に取り組めるようにしている。	
当該年度のシラバスは在校生に配付している。また、4 月上旬にホームページ上に掲載し、広く一般に公表している。	
成績評価の基準・方法	

(概要)

学修成果の評価および認定については、シラバス、学則に定めた成績評価の方法・基準に則り、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。

成績評価の方法は主に定期試験・技術試験・レポート課題等により行っている。それらの評価の配分は、各科目毎に設定されており、各科で作成したシラバスに掲載されている。

成績評価の基準は学則に記載されており、100点満点換算で100～90点をA、89点～70点をB、69点～60点をC、60点未満をDとし、A・B・Cを合格、Dを不合格と定めている。ただし、出席の割合が70%に達していない者は、当該科目について評価を受けることは出来ない。評価の判定及び単位（進級・卒業）の認定については、教務会の議を経て校長がこれを決定する。

シラバスおよび学則は、入学時に配付する「学生ハンドブック」に掲載し、成績評価方法・基準及び認定方法についてはあらかじめ明示している。

卒業・進級の認定基準

(概要)

各学科の卒業認定方針（ディプロマポリシー）を次の通り定め、ホームページにより公表している。

□ディプロマポリシー

医の東西を問わず全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施している。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とし、以下のような能力（卒業アウトカム）を備えた卒業生を輩出する。

- ① 運動器系皮下損傷の応急処置ならびに救命処置に携わることができる。
- ② 医療施設における自身の衛生管理ならびに患者の接遇や他職種との連携ができる。
- ③ 地域の初期医療ならびに予防医学に基づいた医接連携を目標に研修ができる。
- ④ 柔道整復の有用性を吟味し科学的に検証する手法を培うことができる。
- ⑤ 上記の全てあるいはいずれかに特化した社会貢献ができる。

本学科は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与する。

各学科の卒業認定要件は次の通り定めており、卒業判定の手順については各学科の教務会の議を経て校長が決定している。

□卒業認定要件

〈柔道整復科〉

次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。

- ① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位をすべて修得した者。
- ② 柔道整復研修試験財団が実施する認定実技審査に合格した者。

学修支援等

(概要)

■個別相談・指導等の対応

1 週間以上連続して欠席する者には、事由を聴取した上で欠席届を提出させている。（病欠の場合は原則として診断書を提出）。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の10%に達しようとする者には、担任及び科目担当者から口頭で注意を促す。20%に達しようとする者には、科長などが面談を行い授業に復帰できるように補習などを行う他、保護者への注意勧告を行う。30%に達しようとする者には保証人に連絡を取

り三者面談を行うなど、原級留置の注意を喚起している。また、成績不良科目（60点未満）については、再試験や補習を行い、成績の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
45人 (100%)	3人 (6.7%)	41人 (91.1%)	1人 (2.2%)
(主な就職、業界等) 治療院、病院・診療所、介護施設など			
(就職指導内容) ・在校生、卒業生向け呉竹学園求人検索システムにて求人情報を提供している。 ・埼玉県労働産業部や大宮ハローワークより講師を招いて就職支援労働講座を開催している。 ・企業等とのマッチングを行った上で、就職相談会を開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験合格者数（平成30年度卒業生） 柔道整復師 … 45名受験 42名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
158人	12人	7.6%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学は成績不良が主な要因を占めており、担任による面談、個別担当教員による面談、個別補習等を実施しているほか、心理面の相談については公認心理師を配置し、個別相談に応じる体制を整えている。 また、全ての入学予定者に対して入学前より学習指導を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔道整復科Ⅱ部	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜間	2758単位時間	1794 単位時間 /単位	512 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	単位時間 /単位	192 単位時間 /単位
	2678単位時間						

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90人	48人	0人	8人	22人	30人

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要）</p> <p>シラバスの役割、項目ごとの留意点などを記した「シラバス作成ガイドライン」を作成している。このガイドラインに基づいて各講義を担当する教員が12月～3月にかけて授業計画を立案し、3月中旬に各科の教務会で内容の審議を経て、校長が決定する。</p> <p>シラバスには、授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学年）、担当教員（実務経験のある教員はその経験内容）、授業概要（実務経験の反映を含む）、授業の一般目標（GIO）、使用教材・教具、成績評価基準、成績評価方法、履修の注意点、各コマにおける授業計画（内容・到達目標（SBOs）、授業形式）等の項目に加え、講義を担当する教員のメッセージを掲載しており、学生が計画を立てて主体的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>当該年度のシラバスは在校生に配付している。また、4月上旬にホームページ上に掲載し、広く一般に公表している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学修成果の評価および認定については、シラバス、学則に定めた成績評価の方法・基準に則り、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>成績評価の方法は主に定期試験・技術試験・レポート課題等により行っている。それらの評価の配分は、各科目毎に設定されており、各科で作成したシラバスに掲載されている。</p> <p>成績評価の基準は学則に記載されており、100点満点換算で100～90点をA、89点～70点をB、69点～60点をC、60点未満をDとし、A・B・Cを合格、Dを不合格と定めている。ただし、出席の割合が70%に達していない者は、当該科目について評価を受けることは出来ない。評価の判定及び単位（進級・卒業）の認定については、教務会の議を経て校長がこれを決定する。</p> <p>シラバスおよび学則は、入学時に配付する「学生ハンドブック」に掲載し、成績評価方法・基準及び認定方法についてはあらかじめ明示している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>各学科の卒業認定方針（ディプロマポリシー）を次の通り定め、ホームページにより公表している。</p> <p>□ディプロマポリシー</p> <p>医の東西を問わず全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施している。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とし、以下のような能力（卒業アウトカム）を備えた卒業生を輩出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 運動器系皮下損傷の応急処置ならびに救命処置に携わることができる。</li> <li>② 医療施設における自身の衛生管理ならびに患者の接遇や他職種との連携ができる。</li> <li>③ 地域の初期医療ならびに予防医学に基づいた医接連携を目標に研修ができる。</li> <li>④ 柔道整復の有用性を吟味し科学的に検証する手法を培うことができる。</li> </ol>



<p>⑤ 上記の全てあるいはいずれかに特化した社会貢献ができる。          本学科は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与する。</p> <p>各学科の卒業認定要件は次の通り定めており、卒業判定の手順については各学科の教務会の議を経て校長が決定している。</p> <p>□卒業認定要件          〈柔道整復科〉          次の全てに該当する者に対して卒業を認定する。</p> <p>① 本校に3年以上在籍し、卒業までに必要な単位をすべて修得した者。          ② 柔道整復研修試験財団が実施する認定実技審査に合格した者。</p>
<p>学修支援等          (概要)  <b>■個別相談・指導等の対応</b>          1 週間以上連続して欠席する者には、事由を聴取した上で欠席届を提出させている。(病欠の場合は原則として診断書を提出)。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の10%に達しようとする者には、担任及び科目担当者から口頭で注意を促す。20%に達しようとする者には、科長などが面談を行い授業に復帰できるように補習などを行う他、保護者への注意勧告を行う。30%に達しようとする者には保証人に連絡を取り三者面談を行うなど、原級留置の注意を喚起している。また、成績不良科目(60点未満)については、再試験や補習を行い、成績の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	1人 (4.3%)	19人 (82.6%)	3人 (13.0%)
(主な就職、業界等) 治療院、病院・診療所、介護施設など			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生、卒業生向け呉竹学園求人検索システムにて求人情報を提供している。</li> <li>・埼玉県労働産業部や大宮ハローワークより講師を招いて就職支援労働講座を開催している。</li> <li>・企業等とのマッチングを行った上で、就職相談会を開催している。</li> </ul>			
(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師国家試験合格者数(平成30年度卒業生) 柔道整復師 … 23名受験 21名合格			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65人	9人	13.8%

(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・体調不良など
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学は成績不良が主な要因を占めており、担任による面談、個別担当教員による面談、個別補習等を実施しているほか、心理面の相談については公認心理師を配置し、個別相談に応じる体制を整えている。 また、全ての入学予定者に対して入学前より学習指導を実施している。

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
鍼灸マッサージ科Ⅰ部	200,000円	1,500,000円	100,000円	施設費
鍼灸科Ⅰ部	200,000円	1,200,000円	100,000円	施設費
鍼灸科Ⅱ部	200,000円	900,000円	100,000円	施設費
柔道整復科Ⅰ部	200,000円	1,200,000円	100,000円	施設費
柔道整復科Ⅱ部	200,000円	900,000円	100,000円	施設費
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入学金および授業料に対する奨学制度」：2つの学科に入学する場合一部費用を減免する。(200,000円～1,000,000円)</li> <li>・「経済的困窮者に対する学費減免制度」：在学中に、経済的に修学が困難と認められた対象者に対し、授業料の一部を免除する。</li> <li>・「校友会推薦奨学制度」：本学園の卒業生より推薦された入学者に対して入学金の一部を付与する。(100,000円)</li> </ul>				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
<a href="http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/selfcheck.html">http://www.kuretakeiryo.ac.jp/about/selfcheck.html</a>
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>校長は「学校関係者評価委員会」を設置して自己評価結果の報告を行い、委員の意見を教育活動及び学校運営に活用することが「学校法人呉竹学園学校評価実施規則」により定められている。学校関係者評価委員会の開催については年間の事業計画に組み込み、計画的に実施している。</p> <p>○主な評価項目 専門学校等評価基準に基づく自己点検評価の大項目の内容について。 (学校運営・教育活動・学修成果など)</p> <p>○評価委員会の構成 次の掲げる区分から校長が委嘱する委員により構成する</p> <p>①在校生保護者又は保証人 ②卒業生</p>

③関連する業界関係者

④高等学校の校長又は進路指導担当経験者

⑤その他校長が必要と認める者。

なお、定数の明確な定めはないが、「③関連する業界関係者」については必ず3名以上選出するものとする。

○評価結果の活用方法

評価委員は評価結果、課題の改善に向けた指導・助言をまとめたうえで報告書を作成し、校長は報告結果についてホームページで公表を行う。

第1回(7月～9月)学校関係者評価委員会の評価結果は、学内の教務会において改善案を検討し、第2回(12月)学校関係者評価委員会において検討状況を報告している。第2回の評価委員会において提示した検討状況について意見があった際には、さらに改善案の検討を行っている。年度内に対応出来る課題への取り組みについては、責任者である校長の決定により実施し、年度内での解決が困難なその他の課題については、校長の決裁により次年度の事業計画に反映させ、理事会の承認を得た上で実施している。

事業計画は4月1日に全教職員に配付するとともに、教務会を通じて校長は進捗状況を把握し、適宜計画の見直しを行いながら、確実に改善策を実行できるように監督している。これらの取り組みについては自己評価を行っている。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
公益社団法人 埼玉県鍼灸師会 会長	令和1年5月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
公益社団法人 埼玉県鍼灸マッサージ師会副会長	令和1年5月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
公益社団法人埼玉県柔道整復師会 常務理事	令和1年5月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
卒業生 呉竹会会長	令和1年5月1日～ 令和2年3月31日	卒業生
保護者 代表	令和1年5月1日～ 令和2年3月31日	保護者

学校関係者評価結果の公表方法

<http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/evaluation.html>

第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

[http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/public\\_info.html](http://www.kuretakeiryu.ac.jp/about/public_info.html)